

先生の絵は印象派といえる。印象派は色彩を重ねる。だが山崎の風景はあまり色彩的とはいえない。豊かな色を高根半島に、田内の紅葉するハゼの茎木に、自宅のバラの花に求められた。ここに油絵の魅力にとり憑かれた先生の姿が伺われる。

先生の作品には、われわれ後輩がいかにも努力しても追いつけぬ気品がある。熊黒田清輝の流れを汲む格調の高いものがある。時代を超越した清冽な魂を感じる。われわれは芸術と商品と考えるが、先生には芸術は一段と高いところにあるべきだとの信念があった。

中井先生の竹島の話はあまりに有名で、教えを受けてこの話を聞かなかった人はいない筈である。先生的美校卒業後、日本の洋画界には野心的で男性的なテーマをとった青木繁の「海の中」、相田三造の「南風」といった大作が現われた。中井先生もそれらに刺激されて、当時難成の瀬場であった無人島の竹島を題材に選んだ。ここの絵は後年竹島の帰属問題で外務省の資料となった。

先生は性格温厚で実直で、野心的なところがなく、竹島では予期された絵の収穫は得られなかったようだ。しかしこのような性質こそ美術教育家として成功をおさめた所以と思われる。

先生は前田寛治の卒業後赴任して来られたので前田寛治は倉中では教わることがなかったが、彼は浪人中に先生の指導を受けた。彼をして美校受験を決意させたのは、先生の感化によるところが大きかったと思う。倉吉地方の美術人口は、鳥取や米子に較べて、その比率が断然高い。しかもそのほとんどは先生の弟子か孫弟子である。永年にわたって地方文化を育て支えて来られた先生の功績に、われわれはまだ十分に報いているとはいえない。 (『60年誌』より)



写真1-32 「バラ」中井金三



사진:나카이 긴조 선생님의 수업 풍경(1941년)



창립 100 주년 기념지
 돗토리현립 구라요시히가시倉吉東高等学校 발행(2009년)

【다케시마 자료실 소장】

돗토리현 구라요시시 출신의 나카이 긴조中井金三는 1909년에 미술학교졸업제작을 위해 백부인 나카이 요자부로中井養三郎가 대표를 역임하던 다케시마 어업합자회사가 조업하는 배로 다케시마로 건너갔다. 그 후, 나카이 긴조는 교사가 되었다. 이것은 1946년까지 근무했던 구라요시중학교(현:구라요시히가시고등학교)의 기념잡지로, 당시 동료였던 선생님들은 나카이 긴조의 추억으로서, 나카이 긴조 선생님에게 배운 학생은 모두 “다케시마의 ‘강치’ 사냥의 이야기”를 들었다고 한다.